「蝶々夫人」あらすじ

＜第１幕＞１８９０年代、１５歳の蝶々さんは良家の娘だったが父の切腹により家は没落、彼女は芸者にだされていた。アメリカ海軍士官ピンカートンは仲介人のゴローにより現地妻として蝶々さんを紹介され結婚する。蝶々さんは女中のスズキと少しの所持品を持ち彼に尽くす覚悟でキリスト教に改宗する。その改宗に叔父の僧侶のボンゾに責められ、悲しむ蝶々さんをピンカートンは慰め、二人は初めての夜を過ごす。

＜第２幕＞結婚生活もつかの間ピンカートンはアメリカへ帰国し、蝶々さんは帰る日を３年も待ち続けている。ある日アメリカ総領事のシャープレスが彼の手紙を届けに来るが、その内容はアメリカで結婚した妻を連れて日本に行くというもので、彼女に真実を言えず苦しむ。シャープレスが帰った後軍艦入港の大砲が聞こえる。部屋中を桜の花びらで飾り、息子と彼の帰宅を一晩中待つ。翌朝子供と休んでいると、ピンカートンと妻のケイトが訪ねてくる。スズキから蝶々さんの思いを聞いたピンカートンは深く反省し、耐えられず立ち去る。アメリカ人女性の姿を見た蝶々さんは全てを悟り、子供を預かるというケイトの話しに、彼が迎えに来るなら渡すと言う。ピンカートンが駆けつけたとき彼女は父の形見の短刀で自害していた。

	蝶々夫人	ピンカートン	シャープレス	スズキ	ゴロー	ヤマドリ	ボンゾ	神官	ケイト	ドローレ
26日	羽山弘子	津久井佳男	井上雅人	井口雅子	根岸一郎	山口楽生	上田飛鳥	山口 楽生	沖藍子	山崎歌葉
27日	津山恵	三村卓也	杉野正隆	加賀ひとみ	新津耕平	服部聖人	松澤佑海	服部 聖人	山本智子	松澤茉南

指揮　諸遊耕史

演出　土師雅人

＜チケットお取扱い施設＞

- ・ティアラこうとう　03-5624-3333
- ・江東区文化センター　03-3644-8111
- ・亀戸文化センター　03-5626-2121
- ・古石場文化センター　03-5620-0224
- ・豊洲文化センター　03-3536-5061
- ・東大島文化センター　03-3681-6331
- ・総合区民センター　03-3637-2261
- ・深川江戸資料館　03-3630-8625

江東区文化センターホール
東西線「東陽町駅」1番出口より徒歩5分
東京都江東区東陽4－11－3

問合せ：江東オペラ制作部
TEL080(5473)0403
mail:kotoopera@xvg.biglobe.ne.jp